

びんぼう【貧乏】

戦後間もなくのころ、貧乏のイメージは輪郭がくっきりしていた。北野武の『たけし君、ハイ』の世界である。だが、いつの間にか、何が貧乏なのかははっきりしなくなる。

そもそも、貧乏の定義がむずかしい。ある人の経済状態も、フロー(年収)で測るかストック(資産)で測るかで、結論はまったく違ってくる。一等地に代々の持ち家を構え、固定資産税だけで青息吐息の「貧乏人」もいれば、持ち家をあきらめグルメや海外旅行三昧のDINKSもいるのだ。それに、誰が貧乏なのかは相対的な問題だから、境目がはっきりしない。しかも、経済は年々発展していくので、同じレベルにとどまっていたのではどんどん貧乏になってしまう。誰だって、何がしかは貧乏なのである。

これでは困るので、貧乏を絶対的に定義してみよう。ポードリヤールの「流

行」の定義をヒントにすると、こんなことができる。

貧乏IIある物の耐用限度が過ぎても、それを更新する余裕がない状態。具体的にはたとえば、「服がぼろぼろになっても、お金がなくて新しいのが買えない」ことだと思えばいい。

この定義でいいはずだが、問題は「貧乏」が観察可能でないことだ。なぜなら、

ケチIIある物の耐用限度が過ぎても、それをわざと更新しない状態というのがある。見分けがつかないからである。「仕方なしにボロを着ている」のか、それとも「わざとボロを着ている」のか、本人にしかわからないのだ。いやもしかすると、貧乏な人間はプライドのために、自分をケチだと信じこんでいて、貧乏だという自覚がないのかもしれない。貧乏人は、金がないとは思っても、自分が貧乏だとは思わずに、「生活は、中の下」などと答えたりするもの

なのだ。

貧乏はゆるやかに進行するので、そんな錯覚が起こりやすい。ボロを着ている本人は、買ったばかりの新品の記憶にまだ支配されている。捨てるに捨てられぬモノたちの履歴に囲まれて、妄想はどこまでも膨らんでいく。いまや貧乏人はモノ持ちなのだ。

おかげで貧乏は、放浪とあまり関係がなくなった。放浪は、必要に迫られない場所の移動、つまり贅沢に属する。最近の貧乏人は、移動しようと思ふ余裕がない。貧乏人にはやはり、妄想がよく似合うのだ。

橋爪大三郎

金融道 カネと非情の 法律講座

六法全書では
ぜったいに分らない、
現代人必読の
〈カネと法律の掟〉



監修
青木雄二
定価1,200円

いま全国で爆発的人気!

● 根底に傾聴すべき批判—橋爪大三郎(社会学者)

本書は金融トラブルの実例を面白おかしく描いているだけではない。そのリアリズムの根底に傾聴すべき批判がある。……関係「ギョーカイ」の人々の「シヨウシキ」であり、彼らが公然と口にしなない真実がある。これはもう立派な教養書である。日本の法文化の一環資料だと私は思う。このまま翻訳しても、日本を理解するのに役立つの書物として注目を集めよう。 (朝日新聞(老付)・■読者投稿)

40万部突破
発売たちまち

「身中の虫」復活時代における「まぼい」冊。

笑のカーニバル

グルメでペット好きな国際人。こんな日本人のお腹で寄生虫が叫びまくる。人と腹の虫との今日的関係を権威が語る。定価1,500円

寄生虫博士奮闘記 藤田紘一郎
長崎医科大学教授

石井克人 資本主義を語る

人間は本当に資本主義の中心にいるのか
この世に富を生みだしてきたのは本当に人間であったのか? 二つの価値体系の差異を媒介してきた資本主義を語る。定価1,800円

下112-01 東京都文京区湯島2-12-21
講談社
定価は消費税込みです。